

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601738
法人名	株式会社 さくら苑
事業所名	グループホーム さくら苑 (ユニット名 2階)
所在地	福岡県久留米市南1丁目17番1号
自己評価作成日	平成22年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも高齢化率の高い地域にあり、平成15年12月の開設より地域の中の認知症になってしまった方々の住む「いえ」として事業をおこなっている。ご利用者様が、地域に暮らす一人一人の住民として暮らしていけるよう支援しており、日頃の散歩・地域の夏祭りには毎年参加している。また7年目を迎える今日、開設当初よりご入居いただいている方々の状態も変化されてはいるが、同じ「いえ」に住む疑似家族として、また協力医の絶大なご協力のもとターミナル・お看取りまで行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の介護理念は、開設当初と変わらず地域の中のひとつの「いえ」として考え、毎朝の朝礼時には唱和、実践に向け努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気温には考慮しながら日常的に散歩を行い、また地域の夏祭りには毎年参加し、地域の一員として暮らしていけるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特設の相談時間を設けてはいないが、電話による相談・屋外へ出た際に気兼ねなく相談して頂き、応じており必要と感じた際には、事業所の紹介等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当グループホームの運営推進会議には、近隣の他事業所の方にも参加していただき、情報を共有すると共に意見を伺いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ出向いた際には必ず担当者と面会し、情報提供を伺いまた、当グループホームの現状も伝えている。なお、研修会・勉強会の情報が入った際には、市役所へ連絡し市内の事業所へ市役所よりメールにて連絡していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解している訳ではない。なお、日中玄関の施錠をすることはないが、入居当初の現状を考慮の上安全上、各フロアーの入り口を施錠することはある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修・勉強会に参加できるよう、案内板に掲示し、また各ユニット月1回のミーティングに於いて勉強会を行い、職員が意識しながら業務を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前には、日常生活自立支援事業・成年後見制度を利用されていた方もおられ、必要と感じられる方には制度に対する助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関しては、十分に納得していただいている。また改定等により変更が生じた場合には、文書にてご連絡し理解・納得をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の資料には、市役所・国保連の電話番号を記載し意見・要望がある際には、ご連絡いただけるようにしている。また、ご要望をいただけた際には運営に反映している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼・月1回のミーティングには、職員に対し意見を求めまた、常日頃より職員が代表者・管理者に意見や提案を申し出やすい環境づくりに努め、意見や提案について反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修・勉強会のチラシを掲示板に貼りだし、職員の参加を促すと共に参加した職員に対して研修の記録を提出してもらい、評価につなげている。また年に2回、職員全員に自己評価を記入してもらい、向上心をもてるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢等により採用対象から排除することはないが、やる気の有る無によって、排除している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「人権教育・啓発活動」と意識して取り組んではないが、常に入居者の人権を尊重し業務にあたるよう、話している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はもとより、ひと月に1回のミーティング時に勉強会を行い、個々の知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会に加盟し、グループホーム部会に於いて、他の事業所との勉強会・研修会に参加し互いのサービスの向上に向け取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と入居希望の方が見学に見えたとき、昼食と一緒に食べていただき雰囲気や居心地を感じて安心していただくよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が困っていること、不安など傾聴し情報も頂き苑での1日の生活の過ごし方や一年間の行事など説明し不安のないように心掛けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して苑の生活を送っていただくように既往歴など確認し病気に対しての支援を行っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中不安になられぬようにスタッフが横に寄り添い声かけを行いながら笑顔で過ごしていただけるように努めている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	さくら苑便りなどでご利用者の状況をお伝えし又時間の許す限り面会に来ていただき外出外泊をおすすめし、家族の絆を大切にさせていただくようにしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の方の面会をお願いし、又たまには一緒に外出や外食をしていただいている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに皆さん集まって歌ったり体操したりしている。又母の日・敬老会や誕生会季節の行事など行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院、施設などに転院されてもお見舞いに行き様子を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生活してきた様式(ベット、畳)など希望を聞いて取り入れている。1人暮らしの方などは仏壇も置いている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	月1回のミーティングでの話し合いや運営推進会議でのご家族の意向などを聞いている。生活暦をご家族に書いていただきこれまでの暮らしぶりを介護スタッフが把握できるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者様の生活リズムを尊重し、朝夕2回のバイタルチェック、ADLに応じた適応力の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングで各ご利用者様の情報を元に介護計画を作成し3ヶ月に1度見直しを行いご家族にお渡ししている。ご家族が面会に来られた際に暮らしぶりをお話している		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に1日のご様子を記録しスタッフ間で通読し情報を共有。ミーティングで変わったことなどを報告し介護計画に活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望で外泊したり看病のためご家族が泊ったりされている。回数は少ないながら、希望があれば買い物も付き添っている。近くの小規模多機能型やグループホームなどと交流も行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩で外の空気にふれ、近所の方と触れ合われている。病院受診・歯科受診はホーム長の付き添いにより車で送迎され受診している。通院できない方は往診も利用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を行っている。受診不可な方には往診をお願いし容態の変化などに気がけている。年1回の健康診断、エコー検査も受けられるように支援している		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや挨拶で毎日の状態観察を介護・看護スタッフにも伝えている。訪問看護より看護の方法など教えて頂いている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行き直接容態の確認をし、その状態を他スタッフに理解できるように申し送りノートなどに記入している。退院時サマリーなどもいただき参考にしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてご家族・ご本人とよく相談し訪問看護との連携をとっている。入居の際に、重度化・ターミナルになった際の指針のご説明も行っている		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の本を読み知識力をつけている。同業者との勉強会に出席し理解を深めるようにしている。応急救護・普通救命の講習会にも出席し知識を得ている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練には全員参加している。地域の方々とのつながりもあり地域の集まり時には挨拶をして深めるようにしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し声かけも考えて行っている。排泄や更衣・入浴に関してもプライバシーを損ねない対応を行っている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの気持ちを押し付けるのではなく本人がしたいと思うことをできるだけしていただけるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人それぞれのペースを優先しスタッフがご利用者に合わせて支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気温や体調に応じて身だしなみにはアドバイスできるように心掛けている。外出時などには衣類をスタッフと選んだりお化粧されたりしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考慮しながら毎月の献立を作成し、昔なじみの料理も取り入れている。目で楽しみ舌で味わいできるだけ好き嫌いのないように努めている。食後の片付けも会話をしながら行っている		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や力にあった量をつぎ分けている。水分量が少ない方には水分摂取量の計量も行い、声かけし飲んでいただいている。水分はできるだけ1000ccは飲んでいただけるように声かけしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけと誘導を行い、口腔内が清潔に保たれるようにしている。スタッフが義歯のチェックも行い清潔を保っている。週1回義歯洗浄剤を使用している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄回数のチェックを行っている。介助が必要な方に対してはそれぞれに応じた時間毎(1.5時間・2.5時間など)にトイレ誘導している		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や廊下歩行などでの運動や体操をしている。食物繊維を多く含んだ献立をもとに調理しています。間t量、水分も多くとっていただくように声かけしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日のご都合や状態に合わせて希望を伺い気分良く入浴していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に各居室のカーテンや窓締めポイントを確認しに行い就寝環境を整えている。夜間の見守りも寒暖の状況により掛け布団を追加したり空調を時間で入れたりして健康管理にも気配りながら行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の服薬はその都度声かけし手渡しで確実に服用されていることを確認しながら行っている。薬の体内蓄積防止のため水分摂取量をチェックを行い薬の変更などの体調の変化を見守っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下準備、食事前後のテーブル拭きや料理の配膳、後片付けの手伝いの声かけを行い、各人のやる気を尊重して手伝っていただいている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常的に天候季節の状況を考慮しながらご利用者様全員をお誘いし本人の意向を伺い、ホームの近所の散歩を景色や会話を楽しみながら行っている。個人的にご家族と外出される方もある		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は各人の居室にはお金は置かないようにしている(トラブル防止)。ご利用者様によってはお金をお持ちの方もありご家族よりのお預り金より好みのものを購入されている。介護職員と一緒にスーパーに買い物に出かけている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話をかけたりまた、手紙のやり取りをされている。希望によっては居室に電話を引かれたり、携帯電話を持たれている方もおられる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花々を飾ったり階段や居室にはご家族との写真を飾っている。台所はリビングから良く見えるよう又、献立表も書いて食を楽しんでいただいている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにはプランターにトマトなどを植えて水やりを当番でいただいている。庭には野菜類を植え発育や収穫を喜んでいただいている。リビングにテレビやソファを置いて思い思いに過ごしていただいている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、仏壇等を置き又、ご家族や本人と話し合い、和・洋室の部屋作りをしている。面会時一緒に食事をしたり、泊ったりしてひとときを過ごしていただいている		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には本人の顔写真と名前を貼って分かるようにしている。食後の食器洗い、野菜そろえなどスタッフと一緒にやっている		